

## 第2回 大町市立学校通学区再編審議会会議録要旨

- 1 開催日時 令和2年8月20日（金）午後6時00分
- 2 開催場所 大町市役所 東庁舎2階 東大会議室
- 3 出席委員 大町市PTA連合会 中村 敦  
大町市PTA連合会 荒井俊光  
大町市保育園保護者会連合会 下川 舞  
幼稚園保護者 丸田実緒  
大町市連合理事会 内川 篤  
市内校長会 丸山伸一  
義務教育のあり方検討委員会 勝野英男  
識見を有する者 荒井英治郎  
公募委員 眞嶋強志  
公募委員 鳥屋千穂
- 4 説明のため出席した者  
教 育 長 荒井今朝一  
教 育 次 長 竹内紀雄  
学 校 教 育 課 長 三原信治  
学 校 教 育 係 長 柳澤俊樹
- 5 事務局 学校教育課庶務係長 一本木晋

《開会 午後6時00分》

竹内教育次長

第2回大町市立学校通学区再編審議会の会議を開会いたします。

荒井教育長

皆さんこんばんは。全国的に大変な暑さが続いております。一方で、市内でも新型コロナウイルスの感染者が出まして皆さんにもご心配をおかけしたところでもあります。現在のところ沈静化に向かっていると判断し、このまま推移すればあまり大きな心配はいらぬのではないかと考えております。

本日は2回目の大町市立学校通学区再編審議会ということで、ご出席いただきありがとうございます。1回目にお見えにならなかった委員さんもいらっしゃるのでも若干お話をさせていただきますが、大町市には2年間かけて少子社会の中で子どもたちの為に、より良い教育環境にしていくためにどの様にしていくのかということを検討してきました。その中で今後の児童生徒の推移等を考えたときに、中学校1校、小学校2校に再編することが適当という判断をいただきました。これが前提であります。その前提に立って、どのように通学区を定めていくかを第1回目の会議で私の方から皆さんの方にご答申を頂けるように申し上げたところであります。

既存の小中学校を活用していただき大切にさせていただくこと、あくまで学校の再編であるということ。そして地域社会との整合性を図っていきたい。その他いくつかありますけれども、そういう点においてご審議いただきたい。今回は今までの検討経過を説明させていただきご意見を交わしていただきました。ご出席いただきました委員の皆さんには、お願いしている内容をご理解いただけたものと考えております。

本日は今後のスケジュール等についてご理解いただき、最初に中学校の再編についてある程度の方向性を検討いただきながら、その上に立って小学校の通学校区域についてもご検討いただくというような意味で資料を用意させていただきましたので、内容についてご理解いただきながらご協議いただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いたします。

竹内教育次長  
眞嶋会長

続きまして、眞嶋会長からご挨拶をいただきます。

皆さんこんばんは、先月の7月27日の市内9校の学校視察ご参加いただき誠にありがとうございます。また現地を視察したことは審議の上では参考になったと思います。

本日から第2回目の審議会が始まりますが、審議を進めていく上では間違いなく政治論・地域論・郷愁論、この3つは我々の身の上にもふりかかってくる。相当なプレッシャーも感じるわけですが、どうか我々審議会のメンバーの英知と、勇気をもって、公正、公明にしていただけることをお願いして、会長としてのあいさつに代えさせていただきます。今日はよろしくお願いたします。

竹内教育次長

それでは会議事項に入ります。ここからの進行については市の付属機関に関する条例に基づきまして眞嶋会長に進行をお願いいたします。また審議に際しましては先ほど眞嶋会長のお言葉にもありましたが、施設見学における各学校施設の状況や学校からの距離、位置的なものを思い出しながらご検討をお願いしたいと思います。またご発言の際にはお名前を名乗ってご発言頂ければ幸いです。それでは眞嶋会長よろしくお願いたします。

眞嶋会長

(1) 今後の主な検討課題と開校に向けたスケジュール(素案)について、事務局から説明をお願いします。

竹内教育次長  
眞嶋会長

(資料に基づき説明)

説明が終わりました。初めて見るような内容のものもあるかと思いますが、わからないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。

G委員

概ね本スケジュールで、答申できればと思います。

B委員

あり方検討委員会でも中学校の部活が維持できないという話もあったので、そういう意味では、もう1年前倒しのスケジュールは。

竹内教育次長

審議会の答申時期にもよりますが、ご覧の通り、検討事項が膨大であります。一般的に2年くらいの期間を要することが想定されます。イメージを掴んでいただく上でお示ししましたが、進捗が早け

れば1年前倒しとなることも考えられます。

A 委員

各学校PTA会長との話し合いの中で、「いつ頃何が始まって」というスケジュールが見えないという意見から提案させていただきました。進捗が早ければ縮まるかもしれないとのことですが、一方で、確実な再編時期を決める方が良く、やってみたら1年が2年、3年と時間が掛り、先が変わる方が嫌だという意見もあります。小学校、中学校だと、それを目安に家を建てられる方がいたり住む場所を変えたりという方もいるかと思います。お子さんの教育に関してある程度計画をしてやっていきたいという方もいると思います。審議会を進めていく中で、答申を出す頃までにはきちんと日程を固めていければと思います。

竹内教育次長

まだ審議が進んでいない状況です。どの学校を使うかということによっても、スケジュールが変わってくるかと思いますので、審議が深まって来ればより具体的なスケジュールが示しできると思います。

C 委員

仮で学校再編準備委員会を設置するとあるのですが、こちらの委員会は決まっているのですか。

竹内教育次長

まだ、決まっていませんが、PTAの方や学校の先生方や学校に関わる方で審議していただくことになると思います。

荒井教育長

必要であれば1つではなく幾つかの委員会に分けることもあります。

C 委員

では必要ならば保護者会からも選ばれることもありますか。

荒井教育長

はい。

G 委員

スケジュール2年とありますが、おそらく開校の準備をするよりも閉校の準備をする方が、時間がかかると思う。1年で閉校は無理だと思う。一中の60周年記念事業をやっていますが、2年で閉校は少し厳しいと思います。

竹内教育次長

審議事項を確認し調整しなければいけないことたくさんあるかと思いますので時間を要します。ただ、少子化も進んでいることもありまして、速やかにという意見もあります。

今後は審議をしていただいて、できるだけ早くということも考えていますので、調整してまいりたいと思います。

荒井教育長

例えば中学校を先行して、開校が早くなると、小学校は少し遅れることになります。この期間くらいの中で、項目を検討しないといけないという程度で考えていただければ。

E 委員

現時点中では、こちらのスケジュールで、1つの案として進めていければと思います。

私前回、欠席でございましたので、少し最初の話をお聞かせ願いたいのですが、検討委員会での検討内容についてお伺いしたい。

荒井教育長

1年半前に「少子化社会における今後の義務教育のあり方検討委員会」を設置し、中学校1校、小学校2校が旧市内については妥当

であろうとまとめをいただきました。それは答申ではなくて報告という形ですが、それに基づいて、議会説明をしたり、市民意見の募集をしたり、その間、市民アンケート1回とPTAアンケートを2回行っています。

その結果も概ねその方向でした。それらを踏まえた上で結論をいただき、その後、市長と教育委員会の合同で検討する総合教育会議、さらに議会の全員協議会でもご説明をして、全体として、この方向で行くことで、教育委員会としての方針を決めています。そして、この諮問の内容についても総合教育会議で承認をいただいて、その諮問書で審議いただく手続きを踏んできています。

E 委員

この審議会では、中学校1校にする、小学校2校にするところの問題について論議する必要はないということですね。

この決定について、どこの学校を中学校に、どこの学校を小学校にするということを決めていくという発想でよろしいでしょうか。

荒井教育長

諮問書の写しがありますが、「小学校の通学区域に関すること」「小学校と中学校の設置位置に関すること」「通学区域再編の時期など必要な事項に関すること」。この3点についてご審議をいただく場だと理解をいただければよろしいと思います。

D 委員

幼稚園で話をしたのですが、小学校2つにする、中学校1つにする、そういった話をみんな知らなくて、それ以前に「どうして2つにするの？ どうして1つなの？」という話になりました。

市民の皆さんは、どういう形で状況を知り得ているのでしょうか。

荒井教育長

皆さん身近に迫ってきて、そう感じられるのだと思います。

実は、2年間かけて議会での説明や市広報等でもお知らせし、アンケートは市民の中から1千人へお願いしています。手続き的には十分踏んできていると思います。たぶんご自身に身近な話になってきて、ご意見がでてきていると思います。2年近くかけて丁寧に進めてきていることは、ご理解いただきたいと思います。

2校というのは前回の会議に出たように、小学校だったら理科専科の教員を置くための必要な規模であり、そうでないと先生方を充足できません。これは制度的にできないようになっています。だから、現在の大町子どもたちに十分な教育体制をとってあげるためには、現在の学校の児童数では2校くらいになります。

E 委員

既存のある設備を利用していくということは、地域からご意見が多数出てくると想定されるわけですが、当面は批判に対して我々が答えていかないといけないと思うが、既存の学校を利用していくという考え方でいけば、どうしてそれを使って今の状況を過ごしていくかということを理解していただくために丁寧に詳しく皆さんに説明していかないといけないと思います。

荒井教育長

一つの例を出しますと、仁科台中学校クラスの学校を用地があっ

たとして、新しく建てると、だいたい30億円くらいかかり、大変なことであります。現在市内にいくつか学校があって、小学校はだいぶ老朽化している部分もあるので、手を入れたいといけない部分があるかと思うのですが、既存の学校を利用していくことは、現在の町の人口減少や少子化の状況をみるとやむを得ないのではないかと考えております。

眞嶋会長

他にはどうですか。

(意見なし)

諮問内容を再度確認し、内容に沿って審議を進めたいと思います。

荒井教育長

例えば、自治会等で経過や審議内容等について説明の要望等ありましたら、教育委員会で説明に伺います。

眞嶋会長

(2) 中学校区域の再編について説明をお願いします。

三原学校教育課長

(資料に基づき説明)

眞嶋会長

第一中学校を活用した場合と仁科台中学校を活用した場合の比較という点で説明がありました。ご意見・ご質問はありますか。

D委員

給食施設のところに書いてある、食数対応って何ですか？

一本木庶務係長

学校で何食作るかということですが、資料の12学級だと県基準の35人で計算すると420人くらい、さらに先生等含め、一中では建設当初500人を想定した施設だと思います。仁科台の方は15学級ですので、日にだいたい600食くらいを作れると思います。再編した場合、令和5年までは500食以上は必要になってくるので、そういった意味で仁科台の方が食数は対応できるということです。

B委員

学級数の算定は、35人を基本に算定されているのですか。

荒井教育長

長野県は35人以下と決まっています。36人、37人だと学級を2つに分けることになります。

三原学校教育課長

現在の必要学級数については、各学年35人で割った必要数となっています。ただし、単純に35でやっていますが、実際の学校運営の中では、特支のクラスとか出てきますので、読めない部分も多々ありますので、加味してないです。

G委員

先ほどのスケジュールでいくと、令和5年に新中学校開校ということですが、令和5年の合わせた生徒数をみると、おそらく1年生2年生が5クラスで3年生が6クラス、そうすると16クラスで普通教室が17あれば足りるのですが、特別支援まで含めたら教室は確保できるのでしょうか。

三原学校教育課長

基本的な普通教室の数はここにある通りです。それ以外に特別支援の教室が、現状で3部屋開設しております。これ以上増えた場合は、逆に普通クラスの人数が減っていきますので、一中も仁科台も、特に仁科台には多目的室というのがあり、それに該当するのが一中の場合はランチルームですが、それは別棟みたいに作ってあって、

仁科台は校舎の中で並びであるので、余裕教室的な教室もあるとご理解いただければ。

A 委員

一中を活用した場合と仁科台を活用した場合を比較し、教室の方は仁科台の方が、キャパがあることは分かりました。

教室を増やす対応や、給食食数を増やす対応など施設整備を行った場合などのかかる費用も一つの比較材料になるのかと思います。

三原学校教育課長

予算的に試算したものはないので、ご回答できませんが、次回、そういう視点も入れて資料を準備できればと思います。

教室が足りない場合に、ひと教室増やすことは、まだ今後さらに少子化で生徒数減っていくので、新たに建てるよりは、プレハブというのも一つの選択肢かと思います。そういう視点からということでもよろしいでしょうか。

給食施設については衛生管理上の制限で、その基準も高くなってきていますので、今の広さの中で設備を入れ替えるなり、設備を増やす。一中の建替えから7、8年経って、仁科台を新しく建て替えるまでの間でも、衛生基準が厳しくなっています。仁科台の設備の方が新しく、なおかつ給食では生野菜を提供してなく、一度加熱するのですが、仁科台には野菜を急速に冷やす機械も設備されており、そういう設備の違いもあります。

給食施設については、単なる人数分増やせるだけの設備というだけではなくて、プラス、衛生基準がクリアできるような、簡単に比較できるかは難しいですが、できる範囲で次回お示ししたいと思います。

眞嶋会長

他に何かありますか。

E 委員

各学校の施設を見させていただいた時に、どこの学校も給食設備の年数が経っており、いろいろな問題を抱えてしました。過去に給食センターの話がありました。こういった機会に給食センターというものを大町市としても将来を見据えて、再度考えていかなければと感じました。

荒井教育長

給食センターは、仁科台の建設計画の前後して上がってきたものです。これも相当アンケートとってやってきたが、1万人を超える反対署名が集まって、自校給食を守ってくれと、それで市では一度断念しています。

このため、仁科台と一中に最新の設備をして給食を提供できるよう努めてきた経過がありますので、直ちにというのは非常に難しいことでもあります。この学校再編後、また、仁科台の給食施設もやがて老朽化していきますので、そういう老朽化の状況をみながら検討していく必要があるのではないかと思います。

F 委員

生徒数の関係とか、施設の関係のところを比較して、どっちかというところがはっきりわかるようにしていただけると考える上で

は非常に参考になりますので、次回用意していただけるとありがたいです。

眞嶋会長

教育委員会から、一中と仁科台中の比較ということで資料2の1と2を出していただいたのですが、さらに比較等検討項目を加えてほしいとか要望があればとのことですがいかがですか。

B委員

市P連の時にも具体的な比較のためのパターンというかシミュレーションを示してほしいと要望させていただいています。ただそのシミュレーションをする時、中学校が決まらない状態で小学校もとなるとものすごいパターンが出てきます。正直、今の時点の資料で一中と仁中を比較した時には、正直、ある程度明らかなのかなと感じています。その前提で今回は残る校舎でシミュレーションする方が、効率がいいのではないですか。

南小の方で、旧PTAの3役に来ていただいて話をしたのですが、3学年掛ける6クラスに対応できるキャパがあるということや、南小からの場合は電車通学の生徒がいますので、信濃大町駅を利用していますが、一中を選択した場合は乗り換えて北大町駅に行かなくてはいけないことになります。常盤・社地区からの通学に関しては、仁科台の方が選択するべきだという意見がありました。

C委員

先日の視察には仕事が休めなくて行かれなかったのですが、資料の比較を見る限りでは仁科台なのかなってというのは思います。

D委員

私もC委員と一緒に、比較すると仁科台かなと見えますけど。

E委員

中学校については、皆さん言われた通りにそういう流れが妥当かなと。そのなかで一中が空いてくる話が出てきます。北小の老朽化という問題もあり、それらを含めて小学校2校も考えていかななくてはいけないということを、視察をする中で感じてまいりました。

小学校については、地域の真ん中へ小学校をそのまま続けていくのが本当にいいのだろうか、ただ大きな人口を持った地域の皆さんが人口の少ない所に学校へ通うことを考えてみると理屈的にはおかしいではないかと考えています。

一中を上手く使っていけたら場所的にも、もっと南の方の広範囲の生徒が北に通えるのではないかと思います。

F委員

子どもたちが3年間通うことを考えると、通学がスムーズにいくというのは大事で、仁科台の方がいいのかなと思います。

G委員

令和5年度に新規開校を目指すとなれば、教室数から明らかに仁科台かなと感じます。特別支援の学級も確保できて、グラウンドとか外部施設も仁科台の方が広いので、そっちの方がいいのかなと思います。

I委員

資料を見る限りでは、一中にするという点が全然出てこないと思います。小学校についてですが、校舎が新しい一中と仁科台で、両方を利用するとしたら、小学校をどちらの校舎で活用するのがよい

のか判断が難しいです。

A委員

中学校は6キロ以内という点から自分なりに地図を作って円を描いたところ、仁中の建物から半径6キロがほぼ生活圏、稲尾から西山まででした。東西はそんなに幅はないですけど、南北に長い地域ですので、南北は稲尾駅から沓掛駅まで。ということから考えると、十分6キロ圏内に収まっています。

最初の会議でも、駅からの利用がしやすいこと、人目につかない通学路を通るのはよくないということから、最終的に仁科台中学校の方が通いやすいのでは。この比較検討資料からも、中学は仁科台の建物を、利用するというのがスマートなのではないかなと思います。

眞嶋会長

有識者の立場から、今まで出た意見へのアドバイスとかありましたらお願いいたします。

B委員

委員の皆様からまとまったご意見が発表されました。他方で、逆に第一中学校を残すという意見があるとすれば、どのような根拠でそのような意見が出されるのか、その方の立場でぜひ考えてみていただきたいです。委員の皆様の発言にもありましたが、安心安全に子ども達が教育を受けることができるというのが最上の価値だと思います。従いまして、安全性という観点から多様なパターンを比較してみるというのも一案かと思えます。

眞嶋会長

皆さんからそれぞれご発言をいただき、ありがとうございます。概ね仁科台がベストというかグッドベターでベストじゃないかもしれないけど、ベターではないかと皆さんの総意として今日はまとめさせていただきます。また、次回については発言がありましたような観点も踏まえて、新しく資料を作って、精査しながら最終的に中学校の決定をしていきたいと予定していますので、中学校に関しては、今日は以上でよろしいでしょうか。

A委員

もう一点、この会議は実際には本日を含めあと3回ですが。

眞嶋会長

これは拙速に進めることはないし、これは非常に大事なことから、例えば教育委員会で3回の予定でいるかもしれないけれども、4回でも私はいいと考えております。

A委員

回数ではなく、期日までということで、よろしいですか。

眞嶋会長

テーマについては丁寧に、公正・公平に議論して、決定していくという手段で進めたいと思います。

荒井教育長

ご意見がありましたが、ある程度中学をどうするか方針がでない、小学校の検討に入れないということもあると思います。それも踏まえて検討していただければと思います。

眞嶋会長

それでは、会議事項（3）小学校区域の再編について説明をお願いします。



- 三原学校教育課長 (資料に基づき説明)
- 眞嶋会長 説明が終わりました。不明な点があれば発言ください。
- B 委員 図の西小と東小の重なっている部分の中に、同じ場所で分かれているところが見受けられるのですが、この堺の子どもたちというのは、どちらに通ってもいいということになっているのか、入る自治会によって、分かれているという考え方なのか。
- 三原学校教育課長 自治会の行政区によって通学区が決められています。ただ大字は社地区だけど、行政区は神栄町というところもあります。神栄町は東小なので、東小に行くというのは問題ないのですが、神栄町の活動自体は、育成会は大町公民館の活動になるということがありません。
- A 委員 通学区の関係で、社地区の子どもたちは、今、社地区だけで1校ではありません。大町地区の中で、東小寄りの子は東小、西小寄りの子は西小、北小寄りの子は北小に分かれています。そうすると、今それに対して、いろんな活動などが学校は一緒なのに地区が違うという問題が起きています。その問題が大きいのであれば地区ごと、例えば常盤・社地区はこの学校、大町地区・平地区は学校という分け方しかないのかなとも考えられます。
- そうすれば、地区の問題は解決されますが、PTAの方からご意見を伺ったのですが、お父さんお母さん達が心配するのは、せっかく仲良くなったのに離れてしまうのはかわいそう。そういった意見があるので、単純に地区ごとで学校をきめるのは、途中から分かれる子どもにどう配慮するかという点で難しいと思います。
- 三原学校教育課長 現在、西小は、中学校が仁科台と一中に分かれています。私も子どもがそういう立場にあったのですが、保護者からすると、せっかく仲良くなったのに、というのはあると思います。しかし、子ども達はいろんな関わりが大事だと後から考えて思っています。固定された関係だけでずっといくよりは、新しい関わりができることは、やっぱり大事なのかなと思います。
- 荒井教育長 再編を進める際、スケジュール上の手続きだけでなく、子どもたちの交流を行いながら、段階的に教員の研究授業なども実施し、教員同志も交流も進めながら、それぞれのそういう場を作っていく配慮も大事だと思います。
- F 委員 これからの時代、子どもたちは人との関りは大事だと思っています。固定された子ども同士でいると、何か違う環境に置かれた時に、そこをクリアしていくというのなかなか難しいところもあると思います。いろいろな人たちと関わるというのは大事だなと感じているので、今回、本当に仲良くなったという話もあるのですが、また新たな環境で他の人たちと関りを持って、自分を友達と一緒に高めていくということは、大事ではないかと学校の授業の様子などを見ていて感じています。

- I 委員 子どもは案外割り切っているもので、割り切れないのは親の方かなと思います。
- E 委員 地図を見ますと、4つを2つにという話になると、だれが見ても真ん中を残すかという話にはならないと感じています。2校だと限定されてきているわけだから。3校にしていいたとなると、話はできるかと思っています。2校にする中でどうやって分けるかが、一番厳しい話であります。
- G 委員 行政区と通学区を統一することが、あり方検討委員会から報告されています。この地図を見る限り、すごく乱暴なやり方かもしれないけれど、大町と平が一つ、社と常盤が一つという分け方になると思います。行政区と通学区が一緒とするのであれば、そのくらいは絞り込んだ上で、どこの学校をつかっていくか決めていかないと、おそらく話は進んでいかないと。さらに中学を先に決めないと、使用されない中学が出てくるので、話が進まないと思います。
- E 委員 行政区を重視した時に、大町と平、常盤と社、南と北の生徒数のバランス的にはほぼ近い数字にはなるのでしょうか。
- 三原学校教育課長 南の方が少ないです。
- 荒井教育長 その辺のところは、同じでなければいけないのか、それも皆さんの中で一つの議論だと思います。ある程度数でいくのか、それとも地区にするのか。
- 三原学校教育課長 現4校の配置を決めた時には、おそらく、数を優先して配置になったのではないかと思います。その辺をどのように判断していくのかと思います。
- B 委員 行政区を優先した場合のおおよその数というのは試算できますか。その場合、校舎は別として、少ない方の学校できちんと理科の専科の先生がどのくらいまで確保できますか。その為に再編をしていくのだと思うので、数を聞いて判断できないかと思っています。
- 三原学校教育課長 次回に向けて小学校の方は、今日は分布と現在の配置を参考資料とさせていただきますので、次回、こんな視点でシミュレーションが資料として欲しいなどご意見をいただいて、次回資料提示をさせていただきます。現在のコミュニティを中心とした場合のシミュレーションになりますので、それは用意させていただきます。また学校を選定した場合のシミュレーションとか、それ以外にもこんなシミュレーションとかあれば、ご意見いただければと思います。
- A 委員 学校を何年に建て、設備はどうなっているという資料はいただいたのですが、今の流れでいくと、どちらかの中学校を決めて、小学校を選ぶ時、小学校4校プラス中学校1校の5校から小学校2校を選ぶことになります。中学校の校舎を小学校化するにあたっての設備や教室数がどの程度不足しているか、6学年入るので、足りるのか、大きさが中学校向けなので、低学年棟を建てるとか、そういつ

たものがどのくらい、予算的に必要か。その結果、現小学校4校から2校を選ばざるを得ない状況もあり得るのではないかと、各校PTA会長さんから意見がありましたので、その比較は必要かと思えます。

三原学校教育課長

事業費がどこまで出せるかというのはあるのですが、ある程度事業費は見込んでいかないといけないと思います。現在の中学校を小学校として活用する場合もそうですけど、既存の4校を活用する場合にある程度の施設改修等も行わなければいけないので、その辺の事業費も、ある程度お示しできるようにしたいと思います。

B委員

PTAの話の中で、防災面から見た場合に、学校の校舎って避難所にもなったりします。そういう意味で地盤の関係とかハザードマップ上どういう形になっている地域なのかというのが地図上でもしわかれば、一つの参考にはなると思います。

三原学校教育課長

ハザードマップは地図に落とすことは可能なので、入れさせていただきます。

眞嶋会長

他にはどうですか。

(意見なし)

皆さんから活発な意見要望が出まして、滞りなく会議事項が進んでまいりました。今日のまとめとして、H委員さんから助言、アドバイスをしていただけたいと思います。

H委員

他自治体ですと、今回のテーマをめぐっては、非常に感情的な議論となることが多いのですが、皆さん、データを軸としながら冷静に審議を展開されているので、教育委員会にとっても貴重なご意見を頂いているとお感じなのではないでしょうか。また、委員の皆様からは、さらにこういったデータが欲しいという要望もされているので、事務局の方で次回もぜひ同じようにご対応いただきたいと思います。

また、一つの論点として、行政区と学校との関係が出ました。いわゆる住民組織、公民館、育成会、自治会の関係に関しては、以前のあり方検討委員会でも論点となりましたが、「コミュニティスクール」という方向性を大町市として大事にしていることかと思えます。学区を再編してもコミュニティと協働していくことは変わりありませんので、このことも考慮していただきたいと思います。

一点、確認させていただきたいのですが。現時点で学校選択、区域外選択は、件数としては多いのでしょうか。

荒井教育長

現在も非常に柔軟には対応しています。ただし、現在、調整区はありませんが、家庭事情だけではなくて、交友関係も含めて、保護者から申し出があれば柔軟に対応している状況であります。例えば通学区の再編問題で、調整区域、どちらに行ってもいいという区域を設けるべきだという話が、この審議会でもとまれば、それも一つのお考えだと思います。

- H委員                    大きな論点になると思います。これからの生活を考えていくと、その区域の地価が変動することもあり得ます。行政の姿勢も重要かと思ひます。
- 荒井教育長            その辺は弾力的に考えたいと思ひます。委員の皆さんからもご意見をきかせていただひていただひと思ひます。
- 眞嶋会長                他によろしいでしょうか。  
(意見なし)  
それでは(4)その他。
- 竹内教育次長         次回の会議の日程であります、10月8日(木)午後6時からということで段取りを進めたいと思ひます。
- A委員                    お忙しい中、第2回大町市立学校通学区再編審議会、本日議題となつておりました3点につきまして、活発な意見が出されたと思ひます。私もちょっと、会議数が限定されていると思つたものですから、ここまでにこのくらいは決めておかないと、という焦つた気持ちもありましたが、先ほど会長の方から大事な審議ですので、大事に進めていくというお話をいただきまして、私も焦つた気持ちは落ち着きましたので、また小学校の分布に関しましてもまた冷静に考へて検討していききたいなと思ひています。  
今日いただいた皆さんの意見もまたPTA連合会の方でも皆さんに話したりして、多くの意見を集めてきて、次回の会議に臨みたいと思ひます。第3回10月の会議もよろしくお願ひいたします。  
本日はお疲れさまでした。

《閉会 午後7時45分》